



須坂市立小山小学校だより

# 栃の子だより

平成 26 年 11 月 4 日  
No.9

文責：寺島 寿一

栃の木のように 深く根を張り 幹太く 枝葉ゆたかな人

## 校長講話 「いのち 生きていること」 より

今日は、「いのち 生きているということ」について、お話します。この話にした理由は、2つあります。ひとつは、先日の音楽会で6年生が歌ってくれた「いのちの歌」の素晴らしさ・歌詞に感動したこと、もうひとつは、9月26日に校長先生のお父さんが亡くなり、命の大切さについて心から感じたことからです。

「いのち」って、目に見えるものではありませんが、みなさんが「生きている」ということが、いのちの形ではないでしょうか。

最初に谷川俊太郎さんの「生きる」という詩を紹介します。全文は長いので、一部だけ画面に映しながら朗読します。

先ほども言いましたが、「いのち」は見えませんが、「生きている」証拠として、みなさんの体の温かさや心臓の音など、感じることはできると思います。

続いて、この「いのち」について、真剣に向き合った中学生の作文を紹介します。「命を見つめて」猿渡瞳さんが書いた作文です。瞳さんは、福岡県大牟田市立田隈中学校の2年生です。小学校6年生の時、骨肉種という骨にできるガンになりました。死の恐怖と闘いながら、「命を見つめて」という作文を書きました。

これから聞いてもらうのは、瞳さん本人が読んだ作文の一部です。聞いてください。

この作文は、全国作文コンクールで優秀賞を受賞しました。しかし、その知らせが届いたのは、瞳さんが亡くなった3週間後のことでした。瞳さんは2004年9月わずか14歳で亡くなってしまったのです。

瞳さんは、「悲しいニュースを見るたびに怒りの気持ちでいっぱいになる」と言っていました。瞳さんは、みなさんが発するこんな言葉にも、怒りの気持ちを持っていたのではないのでしょうか。

「死ね」「殺すぞ」

「死ね」とは、相手の存在を否定する言葉です。それは、相手の家族、周りの人々など、関係するあらゆるものを否定する言葉です。

「殺すぞ」って、あなたは殺人者ですか。人の命や人生を奪うことは、他のすべて(自分の人生・家族など)を失うことです。

あなたが発する「死ね」や「殺すぞ」という言葉の結果、本当にそんなことが起きたら、責任が取れますか。その時を想像したことがありますか。決して使ってはいけない言葉です。

6年生が歌ってくれた「いのちの歌」は、「死ね」とか「殺すぞ」という言葉とは、対極にあるものです。この歌を聴き、歌詞を改めて読むと、先生は亡くなった父のことを思い起こし、歌詞の通り「そのすべてにありがとう」「この命にありがとう」と心から祈ります。

最後に、音楽会で6年生が歌ってくれた映像を流します。家庭科室の廊下に、6年生が歌に込めた思いや、その反省について掲示してあります。6年生の思いを込めた真剣な歌い方や歌声に先生は本当に感動しました。

全校のみなさんも、ぜひその姿・歌声を心で受け止めてください。

6年生は、親善音楽会でこの「いのちの歌」を歌います。音楽会以上の歌をメセナホールで発表してきてください。